

京教の就職・キャリア支援

MESSAGE

人生の分岐点となる就職にあたっては、まず自分を知り、相手を知ることが大切です。

自分を知ることとは、自分の興味や適性をじっくりと考え、探すこと。

相手を知ることとは、自分が希望する職業とは、そもそも仕事とは何かを知ることです。

個に応じたキャリア形成のために京都教育大学は歴史ある教育大学として、実績を活かした万全の就職支援体制を整えています。

みなさんは教員への就職を志していると思いますが、

本学が用意している就職・キャリア支援プログラムは、卒業後に教員として児童や生徒、

幼児に関わっていくうえで必要十分なものとなっていますので、自信を持って教壇に立つことができます。

皆さんの夢をかなえるための様々なアプローチを活用し、ぜひ未来への飛躍につなげてください。



現場で活躍する卒業生

Graduate.01

**夢に向かって
頑張る姿を
応援しています。**



発達障害教育専攻 平成31年3月卒業 | 京都府立向日が丘支援学校 勤務
早船 佑 さん

私は、特別支援教育における、障がいのある子どもたちへのきめ細かい支援・手立てに魅力を感じ、発達障害教育専攻に入学しました。しかし、実際に障がいのある子どもたちとどのように関わったらよいのか、経験がなかったため、イメージをもつことが難しく、不安でした。そこで、在学中に子どもたちと実際に関わることに力を入れたいと思い、様々な特別支援学校に足を運び、ボランティア活動などをしました。大学の講義で身につけた専門的な知識を子どもたちとの関わりに活かしたり、子どもたちとの関わりの中で気づいたことを、大学の授業のグループワークなどで共有したりすることで、だんだんと自信がついていきました。

入学に向けて不安なことがたくさんあるかもしれませんが、大学の先生方や共に学ぶ仲間や先輩は優しく、頼もしい方ばかりです。私も卒業生の一人として、みなさんが夢に向かって頑張る姿を応援しています。頑張ってください！

Graduate.02

**「子どもって
すごい!」と
実感する日々。**



幼児教育専攻 平成29年3月卒業
教育学研究科 学校教育専修 平成31年3月修了
京都市立中京もえぎ幼稚園 勤務

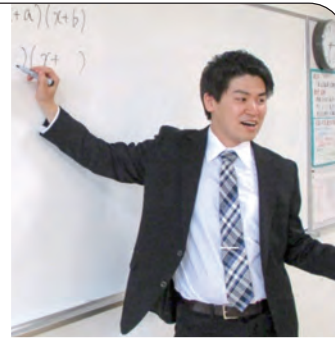
小野寺 由起 さん

幼児期は初めて集団生活を経験する子どもも多く、心身ともに大きく成長する時期です。子どもたちの笑顔に力をもらいながら、成長を近くで感じることができる幼稚園教諭の仕事にとてもやりがいを感じています。子どもたちがやりたいことや楽しんでいることを探りながら、環境や援助を考えていくことには難しさもあります。周りの先生方にアドバイスを頂いたり、保護者の方と子どもたちの姿を共有したりしていくことで、幼児理解を深められるように心がけています。子どもたちと一緒に遊び、豊かな発想に出会ったり、感情を共有したりすることを通し、「子どもってすごい!」と実感する日々です。

在学中にはボランティアやインターンシップ研修に積極的に参加し、実際に現場で子どもたちと関わったり、研修に参加させていただいたりしたことで、自分が教員になるイメージをより具体的にもつことができました。同じ志をもつ仲間と高め合いながら、子どもたちとの出会いを楽しみに頑張っておきたいと思います。応援しています。

Graduate.04

**生徒と向き合った
先に喜び合える
瞬間がある。**



数学領域専攻 平成30年3月卒業 | 綾部市立綾部中学校 勤務
水村 一輝 さん

私の中学校教員としてのキャリアは早くも4年目を迎えますが、変化する日々の中で、新たな発見をしたり、たくさんのことを学んだりしながら、充実した毎日を過ごすことができています。教員をやっていて良かったと感じる瞬間は、自分が関わった生徒の成長や変化が見えた時です。学力面はもちろん、人間的な成長や変化が見えた時はとてもうれしくなります。自分の思い通りにならない時もありますが、粘り強く生徒と向き合った先に、必ず喜び合える瞬間があると信じ、これからも全力で頑張ろうと思います。

教員になり、大学での経験が生きていると感じることがたくさんあります。だからこそ、大学生活でしかできないことに積極的にチャレンジし、その経験を自分の成長に繋げてほしいです。この大学には同じ夢や目標を持った仲間がたくさんいます。そして、その仲間と切磋琢磨し合える環境があります。この環境のもと、仲間と高め合いながら、自分の夢へと突き進んでください! 応援しています!

Graduate.03

**経験の厚みを
増しておいてほしいと
思います。**



理科領域専攻 平成29年3月卒業 | 京都市立七条第三小学校 勤務
瀧本 真太郎 さん

この4月で、小学校で働き始めて5年目に入ります。

学級担任として、子どもたちと一緒にとにかく走り抜けてきた日々でした。子どもたちが考え、悩むのと同じように、自分も授業の内容や子どもとの関係など、考え・悩みながら過ごしてきたのですが、それもあつという間に過ぎていったように感じます。

1年間の子どもの成長には驚かされます。身長や顔つきなど、外面的な成長はもちろん、学習・情緒面でも、たった1年の間に目を見張るような変化をみせるものだと感じました。そんな子どもたちと共に学校生活を送り、成長を喜び合えることが、この仕事の魅力の一つだと思います。

授業では、自分がこれまでどれだけ多様な経験をしたかが、説得力につながると感じる瞬間がたくさんあります。行ったことがある場所、したことがある活動だからこそ、教科書には書かれない体験的な面白さを交えて話せまし、子どもたちも明らかに興味を持って聞いてくれます。働き始めてからできることもありますが、たっぷり時間をかけたり、遠くへ行ったりすることはなかなかできません。大学生のうちに、興味があることには何でも取り組み、経験の厚みを増しておいてほしいと思います。

Graduate.05

**あなたたちの目標は、
夢は、未来は、試験の
向こう側にある。**



国語領域専攻 平成30年3月卒業 | 京都府立洛東高等学校 勤務
小柳 早希 さん

教員として勤務し始めてから、早いもので3年が経ちました。国語の授業をするうえで気づいたことは、必ずしも「知識が豊富である＝授業がわかりやすい」ではないということです。生徒にわかりやすく伝えるためには、多くの知識が必要です。しかし、どれだけ知識を持っていたとしても、正しい生徒観に基づいて授業作りができなければ無意味だ、と日々感じます。

さて、みなさんは今、何のために勉強していますか? みなさんの中にはさまざまな答えがあると思います。一つ、忘れてはならないことがあります。それは、「試験に合格することがゴールではない」ということ。あなたたちの目標は、夢は、未来は、試験の向こう側にあるということです。生徒たちにとどのような生き方をしてほしいのか。生徒たちがどうすれば幸せな人生を歩めるのか。それを軸にして考えることが、試験に合格する、そしてその先にある教員としての在り方がわかる、ということに繋がるのではないのでしょうか。

目標を高く持ち、自分にとって本当に大切なもの、必要なものは何かを常に考えながら日々の学業に取り組んでください。